

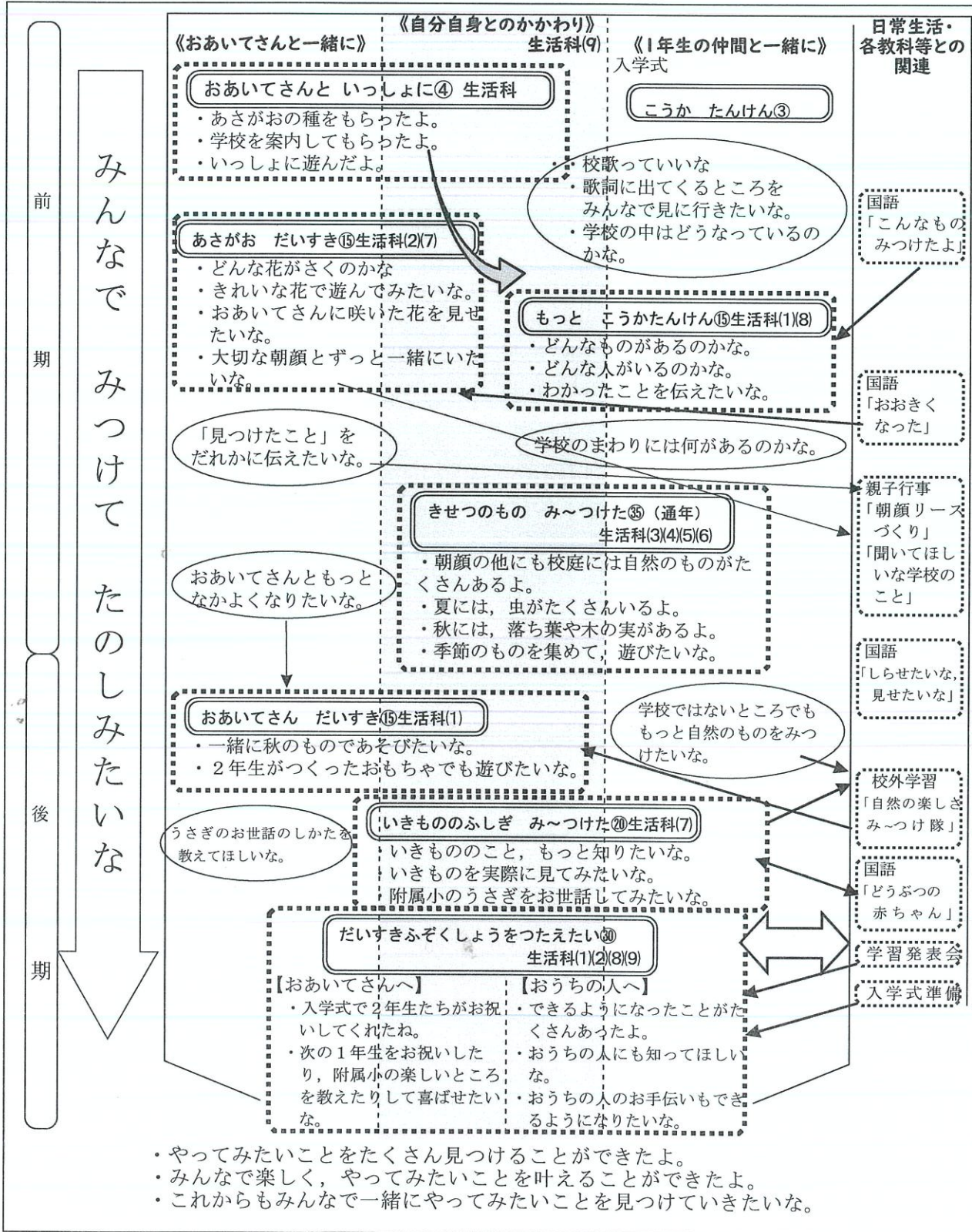
1 テーマ ふぞくしょうのだいすき み~つけた

2 めざす子どもの姿

- 身近な人々、地域、自然に様々にかかわることを通して、「気になること」「知りたいこと」を見付け、それらのよさや自分とのかかわりに気付き、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。
- 身近な人々、地域、自然が自分とどのような関係があるか意識しながら捉え、やってみたいことに夢中になって取り組み、自分なりに考えたり表現したりする。
- 身近な人々、地域、自然に自分から働きかけ、様々な活動や体験を通して、できるようになったことに気付き、新たなやってみたいことを見付けていく。

3 活動計画 (122時間扱い)

○：時数



4 実践報告

〈ゆめの立ち上げ〉

2年生のおあいてさんから「あさがおゆずり会」であさがおの種と育て方の手作り本をプレゼントされ、そのとき「校歌」もお譲りしてもらった。「学校たんけん」で、おあいてさんと学校の中を一緒にまわり、いろいろな教室があることを教えてもらった。すると、「あさがおの種を植えて育ててみたい」「もっと学校を探検したい」という思いが生まれた。教師からは「ゆめの時間は、もっとみんなで〇〇したいな~ということを見つけて、一緒に楽しむ時間だよ」ということを伝えた。すると子どもたちは「学校の中のいろいろなものをみ~つけたしたい」「あさがおを育てて、花を咲かせたい!」という思いをふくらませ始めた。そこで、「学校のいいところ、楽しいところをもっとみつきたい」という子どもたちの願いを、「ふぞくしょうのだいすき、み~つけた」というテーマに込め、ゆめの時間がスタートした。

〈学校のもの、ばしょ、人、み~つけた!〉

入学式や「あさがおゆずり会」で聴いた校歌に興味をもった子どもたち(写真1)に、「実は校歌の歌詞の中に、学校で見つけられるものがある」と紹介すると、「見つけたい!」と意欲が高まった。そこで、2年生に学校を案内してもらった後、1年生だけで探検することにした。「部屋の中には何があるのかな」「先生たちはどんな仕事をしているのかな」と興味を広げていた。そこで、次にやってみたいことを話し合い「部屋の中に入って、どんなものがあるか見たり先生たちから話を聞いたりしたい!」という思いをもった。校内の様々な施設をまわり見つけたものを絵に描いていった。「『ばらの印』がこんなところにあったよ」「新しい図書室で本を読みたいな」「おいしい給食はここで作っているんだ」と学校へ愛着をもっていった。また、様々な人から話を聞き、「用務員さんが学校をきれいにしているんだね」「警備員さんは、いつもぼくたちを見守ってくれてんだね」と、学校には様々な人がいて自分たちの生活を支えてくれていることに気付いた。



写真1 校歌のおゆずり



写真2 小鳥の森の探検

〈小鳥の森でみ~つけた〉

校歌の歌詞にもある「小鳥の森」は、季節ごとに姿を変える。子どもたちは何度も探検しながら(写真2)、木の実、葉、生き物の様子の変化に気付いていった。「学校の周りにはどんなものがあるのかな」「学校にはいない生き物がいたりして」と興味関心が高まったところで、「弘道館」の庭を散策した後、校外学習で「モビリティーズ」もてぎで大規模の自然に触れた。ツアーガイドの説明を聞く中で、生き物と自然が深く関わって生きていることや、森の中で聞こえる数多くの鳥たちのさえずりから、「小鳥の森にもっと知らない生き物がいるかも」と、更なる関心が高まった。そして、「こんな素敵な小鳥の森を新しいおあいてさんやおうちの人にも教えたい」という気持ちから、「学校へようこそ(学校公開日)や、「小鳥の森の発表会」(写真3)で、台詞や歌で表現した。



写真3 小鳥の森の発表会

〈おあいてさんにつながる〉

11月になり、あさがおの種を収穫したことから、「この種もおゆずりしたいな」という気持ちが芽生える。そこから、次の1年生(新しいおあいてさん)に学校のことを教えたい、一緒に遊びたいという思いが膨らんでいった。一人一人がロイロノートを使って、どんなことをしたいかを考え、全体で話し合った。「あさがおブックを作ること」「小学校に招待して一緒に遊ぶこと」は、附属小でずっと続いている伝統である」ことを教師から伝えた。子どもたちは「自分がしてもらったことを新しいおあいてさんにもして受け継いでいきたい」という思いをもち始めた。2月に「はじめましておあいてさんの会」(写真4)では、一緒に遊ぶための具体的な計画を立てたが、今までは自分が楽しむことが第一であったが、「おあいてさんが分かるかな」「こうしたら喜んでもらえるかな」という他者意識が自然と育まれていった。さらに、「ぼくたちに(2年生の)おあいてさんは目を合わせて話してくれたよ」「やさしい言葉で話しかけてくれたよ」と、自分の経験から立ち振る舞いについても意識するつづきやきが聞こえた。これらの活動を通して、「おあいてさんが、小学校の生活を楽しみにしてもらいたいな」という思いをふくらませていった。



写真4 はじめましておあいてさん

これらの実践以外にも、水遊びや秋まつりなど季節ならではの遊びをしたり、生き物に興味をもち教室で虫を育てたりした。子どもたちの思いや願いをもとに、附属小への愛着と身の回りのものや人に興味をもって「み~つけた」できるような手立てを実現してきた。この経験から、自ら問題意識をもち、それらを協力して考えたり、楽しんで追求していく児童の姿がさらに育まれていくことを願っている。(文責 桧山真紀子)